

- 11日、与党連合及び新内閣の結成。アザーロフ新首相の就任。

A. 主な動き

1. 内政

▼11日、与党連合結成

- ・7日、ヤツェニウクNUNS議員は、憲法違反となる(個別議員参加による)与党連合結成ではなく、期限前最高会議選挙までの臨時与党連合を結成するよう提案。
- ・9日、マルティネンコNUNS代表は、NUNSの大部分は与党連合結成交渉に臨む用意があると発言。
- ・9日、68名の最高会議議員は、憲法裁判所に「最高会議の規則に関する法律」改正の合憲性確認を請求。
- ・9日、最高会議は「最高会議の規則に関する法律」を改正。リトヴィン最高会議議長は、同日中に右法案に署名。
- 9日、ヤツェニウクNUNS議員は、ヤヌコーヴィチ大統領と会談した後、野党に残り、自派による野党政府の形成を目指すことを表明。
- ・10日、ヤヌコーヴィチ大統領は「最高会議の規則に関する法律第61条への変更に関する法律」に署名。
- ・10日、コジェマールヒン議員(BYT副代表)は、ヤヌコーヴィチ大統領との会談には臨まないと表明。
- ・10日、V.キリレンコ「ザ・ウクライナ」議員は、BYTの野党グループにもヤツェニウクの野党グループにも加わるつもりはないと発言。
- ・10日、プリューシNUNS議員は、地域党が主導する与党連合に加わる意志を表明。
- ・10日、エフレーモフ地域党第一副党首は、与党連合結成に賛同する議員の署名が既に230名分集まっていると発表。
- ・11日、リトヴィン最高会議議長は、地域党、共産党及びブロック「リトヴィン」の235名の議員の賛成により与党連合が誕生したことを宣言。
- ・11日、最高会議はティモシェンコ首相の罷免を237名の議員の賛成、また内閣の罷免を238名の議員の賛成により決定。
- ・11日、マルティネンコNUNS代表は、憲法違反の疑いのある与党連合には加盟せず、また他の政治勢力の代替にもならない、欧州の価値を持つ欧州国家としてのウクライナの発展を目的に野党として活動を続けると宣言。
- ・11日、BYTは、与党連合に参加したBYT所属のザディルコ、バルヴィネンコ、カプリエンコ、チェルピツキー、サフチェンコ及びブルネーエフ議員の議員権限停止を求め中央選挙管理委員会に申し立て。
- ・11日、ゲルマン大統領府副長官は与党連合及び新政府

が憲法裁判所で違憲と判断された場合、ヤヌコーヴィチ大統領が最高会議を解散し、議会選挙を行うと発言。

- ・11日、アザーロフ首相は、閣僚会議行動計画案と2010年予算案を同時に最高会議へ提出予定と発表。

▼11日、新内閣組閣

- ・9日、ヤツェニウクNUNS議員は、新政府のポストを提案するヤヌコーヴィチ大統領と会談した後、自分の信念に従い野党へ移ることを決定したと発表。
- ・10日、ヤヌコーヴィチ大統領は、チギプコ元中銀総裁が新政府でのポスト提案に応じ、経済問題担当副首相になると発表。
- ・11日、最高会議はエジェリ国防相、グリシチェンコ外相及びホロシコフスキー国家保安庁長官を承認。
- ・11日、最高会議は242票の賛成をもってアザーロフ首相を、240票をもって新内閣を承認。
- ・11日、アザーロフ首相が発表した組閣人事は以下のとおり。クリューエフ第一副首相、セミノージェンコ人文問題担当副首相、コレースニコフEURO2012担当副首相、シフコヴィチ治安機関担当副首相、スラウタ農業複合体担当副首相、チギプコ経済問題担当副首相、チホノフ地域政府担当副首相、グリシチェンコ外相、トルストフ閣僚会議相、ツシュコ経済相、ヤロシェンコ財務相、モギリョフ内務相、V.ポイコ環境保護相、Y.ポイコ燃料エネルギー相、エフィメンコ運輸相、コレースニコフ産業政策相、クリニャカ文化相、ラヴリノヴィチ法務相、ムイトニク保健相、ナドラガ労働・社会政策相、ボボフ公共サービス相、プリシャジニク農業政策相、サフィウリン家族・青年・スポーツ相、タバチク教育科学相、ヤツパ地域発展相、シューフリチ非常事態相。

▼政府人事

- ・11日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ヒメイ元国家保安庁作戦技術局長を国家保安庁第一副長官に任命。
- ・11日、ティモシェンコ元首相は、憲法に違反した形で誕生した新政府には、オリガルと各派の人間が入っており、今後は巨大汚職と国家財産略奪の時代が到来すると発言。
- ・12日、ヤヌコーヴィチ大統領はステリマフ中央銀行総裁を解任する予定がないと表明。

▼言語問題

- ・9日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ウクライナ語は唯一の国語であり続けると発言。また地域言語のための欧州憲章の導入を宣言。
- ・9日、シモネンコ共産党党首は、ロシア語の第2国語化に

関する国民投票を実施するようヤヌコーヴィチ大統領に呼びかけ。

・9日、ゲルマン大統領府副長官は、ヤヌコーヴィチ大統領のウクライナ語をめぐる発言に関し、ウクライナでのロシア語保護の公約に変化はないと説明。

・10日、ユーシチェンコ元大統領は、ウクライナでは第2国語の導入を進められるだけの大統領は誕生しておらず、ウクライナにとっての母国語はウクライナ語であると発言。

・10日、グレイズロフ露国家院議長は、ヤヌコーヴィチ大統領によるロシア語の第2国語化を拒否する発言は正しい決定とは言えないと発言。

・11日、トメンコ最高会議副議長は、ロシア語が与党連合の言語になった、ロシア語は大統領府の言語であるばかりでなく、新政府の言語にもなったことは明らかと発言。

・11日、ヤヌコーヴィチ大統領のウクライナ語が唯一の国語であるとの発言に関し、ネステレンコ露外務次官は現時点でのコメントはないと発言。

▼その他

・9日、国民・民主勢力の民会(党大会)は、ティモシェンコBYT代表を民主統一野党の代表に選出。

・11日、ジェミレフNUNS議員(クリミア・タタール団体「メジュリス」代表)は、「人種間不和を扇動」したとしてモギリョフ新内務相を欧州の裁判所に訴え、またモギリョフの内務相任命問題を欧州議会の演説でも取り上げると発表。

・12日、議員グループ「競争力と改革のために」が結成。BYT及びNUNSから14名の議員が参加。

2 . 経済

▼マクロ経済

・6日、国家統計局は2月の消費者物価指数が前年同月比1.9%の上昇であったと発表。食品及び非アルコール飲料で3.5%上昇。

▼新政府の政策

・8日、ヤヌコーヴィチ首相は露、カザフスタン、ベラルーシとの関税同盟には、WTOの条件に合致している場合にのみ参加出来ると発言。また、これら3国が早期にWTO加盟国となるよう希望していると発言。

・11日、アザーロフ首相の発言

- 国際貿易の黒字を目指し、ウクライナからの投資の引き上げを食い止め、税、社会保障制度、光熱費等の改革、汚職対策、生活水準の向上に尽力する

- 新政権には新税の導入予定は無いが、高級品に対する消費税が値上げされる可能性がある

▼IMF

・12日、チギブコ経済担当副首相はアリエールIMFウクライナ常駐代表と会談。IMFとの協議再開について議論。アリエール常駐代表はIMFのスタッフが3月15日から21日の日程でウクライナを訪問と発言。

▼EURO2012

・10日、閣僚会議は110億グリブナをEURO2012準備資

金に計上する閣僚会議令を承認と発表。

・11日、エフィメンコ運輸通信相は、同省の現時点での優先課題が、EURO2012のための高速道及び関連施設の整備であると発言。

▼ガス問題

・7日、リトヴィン最高会議議長は、ウクライナ・露・欧州の国際ガス輸送コンソーシアムの形成を全政治勢力が支持すると信じていると発言。また、ウクライナは露の埋蔵ガス開発と利用に対するアクセスを与えられるべきであり、コンソーシアム形成においてはEUからの金銭的・技術的支援を受けなければならないと発言。

・8日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ウクライナで組閣終了次第、政府レベルでガス問題の二国間協議を開始、ウクライナ、ロシア及びECが懸念するエネルギー安全保障の問題を協議し、今後の方針を決定すると発言。

・10日、ヤゼフ露国家院副議長(露ガス協会総裁)は、ウクライナとのガス契約見直しは時期尚早である、ウクライナのガス輸送システムの近代化のためには国際ガス輸送コンソーシアムを設立することが必要と発言。

▼その他

・11日、世界銀行はウクライナ政府が、家庭向けガス・光熱費を2011年までに倍に値上げするべきと発言。また、女性の年金受け取り開始年齢の55歳から60歳への引き上げの必要性についても言及。

・11日、道路公団は2010年に道路関連事業に200億グリブナ(ガソリンの消費税による100億グリブナ、国際金融機関からの35億グリブナの融資、65億グリブナの国内融資等)が投入される見込み、と発表。2009年は、同事業に凡そ168億グリブナが投入された。なお、道路公団は2010年に総延長374kmの道路を開通する予定。

・11日、道路公団はJICAに対しミコライフのピヴデンニ・グ川に架かる橋梁に対する5億4000万ドルの融資を要請。

3 . 外政

▼7日、米上院がウクライナの民主化達成に関する決議案を採択

・大統領選挙成功を指摘、全ての国にウクライナの主権尊重と領土保全尊重を呼びかけ、ウクライナの自由、民主制度、市場経済化を米国が支援することを約束、二国間関係強化の意向表明。

▼10日、ヤヌコーヴィチ大統領とG8及びEU大使との会合

・最高会議内の与党連合結成を前に、関連法律改正に対する国際社会の理解を求める。

・今回からはロシアが加わりG8会合となった。

▼11日、外相にグリシチェンコ駐露大使が就任

・ヤヌコーヴィチ大統領の推薦する外相人事を最高会議が承認。

(主な経歴)・1953年、キエフ生まれ。56歳。

・1976～81年、在ニューヨークソ連国連代表部勤務。

- ・1981～90年、ソ連外務省勤務。
- ・2000～03年、駐米ウクライナ大使。
- ・2003～05年、ウクライナ外相。
- ・2006～07年、ウクライナ首相補佐。
- ・2008年～、駐露ウクライナ大使。
- ・12日、シコルスキ・ポーランド外相はグリシチェンコ外相の就任を祝福し、ポーランドへ招請。グリシチェンコ外相のポーランド訪問の日程については今後両国外務省で協議の予定。

▼11、ヤヌコーヴィチ大統領とハーパー・カナダ首相との電話会談

- ・ヤヌコーヴィチ大統領は、カナダとの関係を優先事項の一つと位置づけ、1万人以上のウクライナ系住民が居住するカナダとの人道、文化関係の発展に関心示す。

▼11日、プーチン露首相がアザーロフ首相に就任の祝辞を发出

- ・両国間の多面的結び付きを強化する道において、最も緊密かつ建設的な共同作業を望む。ロシアとウクライナの兄弟民族の利益を完全に満たすと確信。

▼11日、対露関係等に関するアザーロフ新首相発言

- ・ウクライナは国益に基づき、対露関係を修復。
- ・ガス価格の適正化をロシアに要請する意向。
- ・IMFとの協力関係再構築は直ちに実施。

▼11日、対ウクライナ関係に関するネステレンコ露外

務報道官発言

- ・ヤヌコーヴィチ新大統領の訪露は二国間関係改善の道を切り開いた。
- ・ヤヌコーヴィチ大統領は二国間の諸問題に関し肯定的雰囲気を作り出した。
- ・二国間首脳の主催する政府間委員会は作業を加速化する予定。

▼その他

- ・8日、チェコ組織犯罪摘発担当警察隊(UOOZ)は、プラハとクラドノで人身売買をしていた容疑でウクライナ人男性4人を拘束。仲介料1000ドルでウクライナ人に労働を強制。
- ・10日、ポロシェンコ外相はダーヴトオール・トルコ外相と電話会談し、イスタンブールのウクライナ総領事館で起きた事件について協議。ダーヴトオール外相は遺憾の意を表明し、イスタンブール及びアンカラのウクライナ外交施設に対する警備を強化すると伝達。

4 . 防衛

- ・11日、ヤヌコーヴィチ大統領は、エジェリ新国防相を国防省及びウクライナ軍高官に紹介するとともに、平和維持活動にウクライナ軍人を参加させ国際的なあらゆる責務を果たすと発言。

- ・12日、ウクライナ海軍司令部は、ウクライナ - ロシア海軍指揮所演習(6月に実施予定、捜索・救助活動のための訓練)実施のための会議を開催したと発表。

B . その他の動き

3 / 9 (火)

- ・関係筋は、露黒海艦隊旗艦であるミサイル巡洋艦「モスクワ」が初めてウラジオストクに移動し、太平洋艦隊艦船とともに演習「ヴァストーク2010」に参加するであろうと発言。
- ・ドネツクDTEKスキドエネルゴ(Skhidenerho)エネルギー会

社が、京都議定書における500万以上の排出削減単位(ERU)を販売予定と発表。

(了)